

第9次総合計画 策定方針

令和5年6月28日
区長会定例役員会
企画政策部 企画課

1 総合計画の意義

総合計画は、豊田市のまちづくりの羅針盤

変化の激しい社会(VUCA時代)において、常に施策の見直しを前提とする計画

市民	・社会背景を踏まえた今後のまちづくりの方向性を共有する ・まちづくりのめざす姿の実現に向けた重点的な施策や取組を共有する ・市民自身の具体的なまちづくりへの行動につなげることができる
行政	・まちづくりの方向性に基づき、自らの部局の目標や施策を整理する ・まちづくりのめざす姿の実現に向けた重点的な施策や取組を推進する ・変化する社会環境に合わせて、施策や取組を柔軟に見直し対応する

共働

2 策定のポイント

①「ひと」のつながりや活躍を支援し、新しい価値を創る計画

- ・多様な「つながり」の機会・仕組みなどを十分に生かし、市民一人ひとりが活躍し、新たな価値を創出するまちづくりを重視する。
- ・市民のまちへの愛着や文化の醸成を背景にまちづくりを推進し、本市ならではの個性豊かな価値や可能性を創出していくことを重視する。

②様々な資源と先進技術を融合し、圏域をリードするまちを創る計画

- ・長期的な人口動向を踏まえつつ、本市が有する多様な資源と、今後生み出される様々な技術革新を生かしながら、愛知県や日本の成長をけん引するまちづくりを重視する。

③戦略性と弾力性のある計画

- ・限りある経営資源を、重要度の高い政策課題等に優先的に配分できるよう、戦略的に取り組む施策を明確に示す計画とする。
- ・先の見通せない社会において、効果的な取組を展開するため、常に施策・事業を機動的に見直し「チャレンジ」することができる計画とする。

3 計画の期間と構成

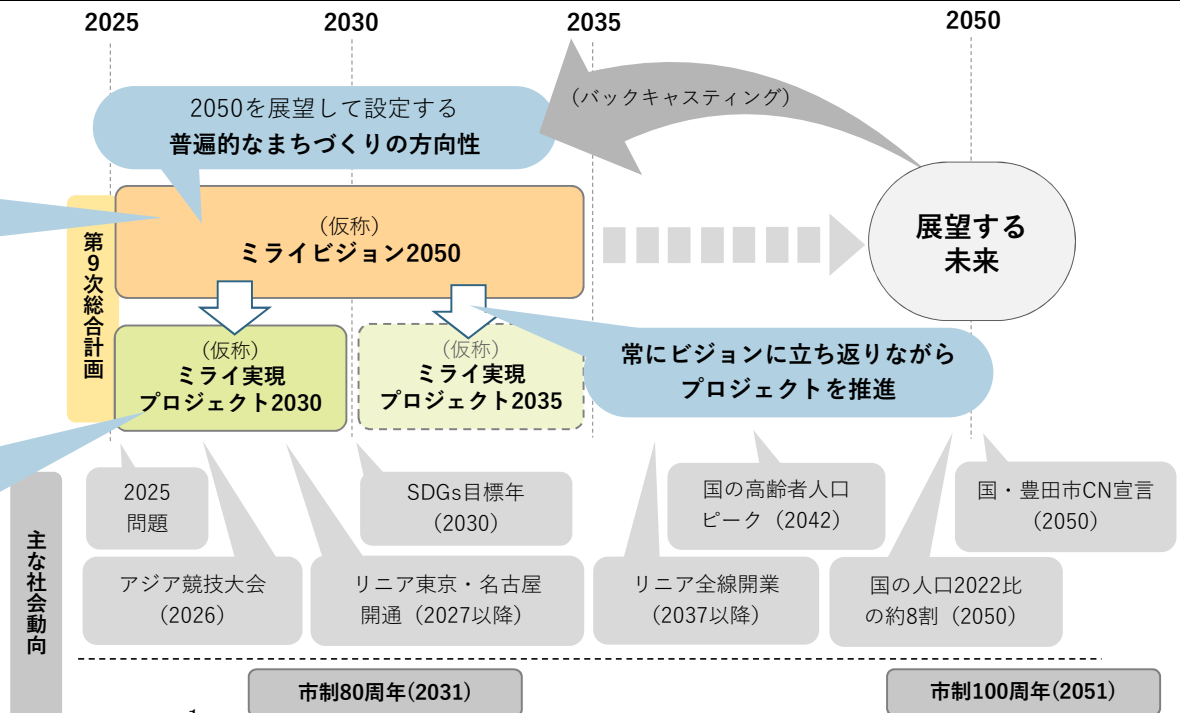
計画期間：2025～2034年（10年間）

長期的な展望による普遍的な「まちづくりの方向性」

- めざす姿
「つながる つくる 暮らし楽しむ」の理念をベースに検討
- まちづくりの基本的な考え方
「発想の転換」と「3つの『変える』」を意識
- 都市構造
変化し続け、持続可能な都市として成長するまち

「まちづくりの方向性」に基づき、実施する施策や取組

- 5年間で重点的に取り組む施策を体系化
- 社会環境変化に適應するため、柔軟かつチャレンジングに取組を展開
〔施策〕必要に応じて柔軟に変化させる
〔取組〕選択と集中を図るため、毎年度見直しを実施

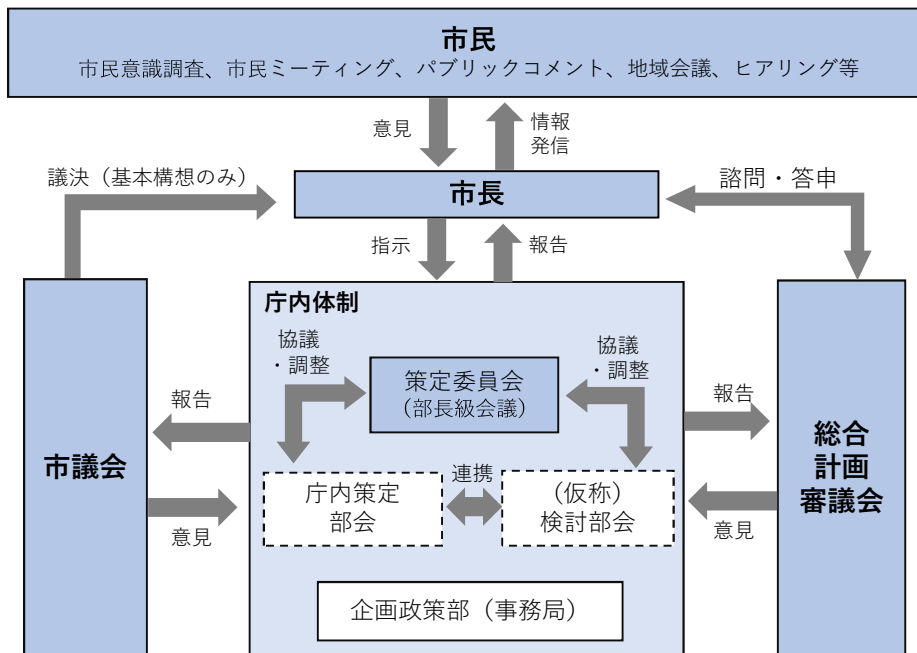


4 策定の進め方

(1) 策定体制

名称等	役割	構成
総合計画 審議会	・総合計画の策定に関する調査及び審議	・有識者、関係団体、 市民公募委員等
策定委員会	・総合計画の策定に関する調査及び検討	・副市長、教育長、事 業管理者、各部局長
庁内策定 部会	・施策に関する内容検討 ・施策策定に関する資料及び素案の作成	・関係課長 ・関係課計画担当者
(仮称) 検討部会	・横断的な施策に関する調査及び検討 ・土地利用構想の策定に当たり必要な事 項の検討 ・その他計画策定に当たり必要な事項の 検討	・関係課を含む副主幹、 主任主査から選任

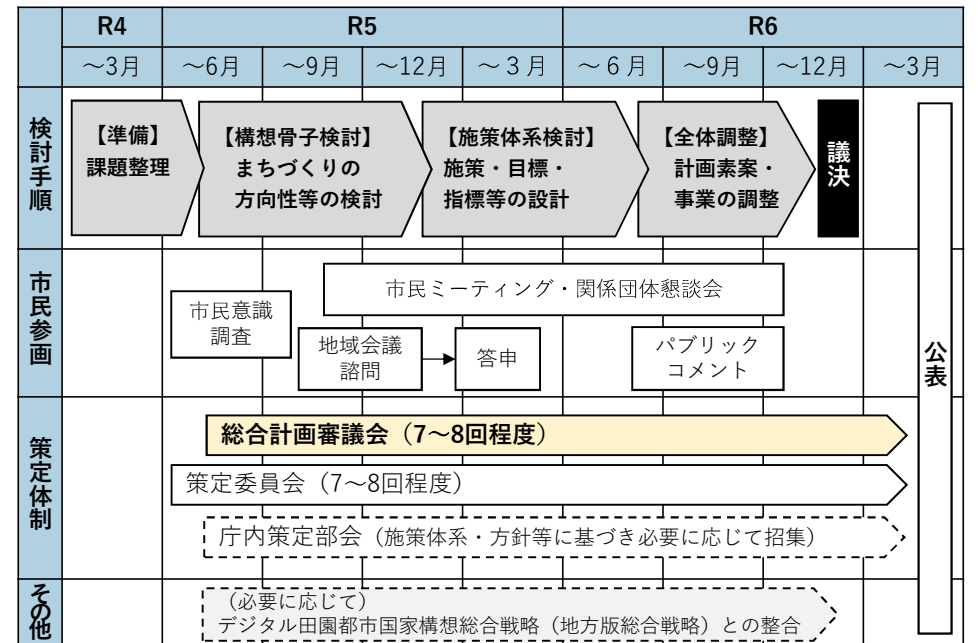
策定体制全体イメージ



(2) 市民参画

取組	ねらい	手法
①市民意識調査	◎市民の意識や実態の把握 ・総合計画の目標設定等も視野に入れた市民意見の定量的な把握	・無作為抽出した市民6500人を対象としたアンケート調査
②市民ミーティング	・「これからのまちづくり」に対する市民意識の把握	・多様な市民が参画する対面での意見交換会 ・アーカイブ配信等、デジタルツールを活用した意見聴取
③地域会議	◎市の考え方に対する市民意見の確認 ・計画の方向性や取組等に関する地域意見の把握	・地域会議への諮問、答申
④関係団体懇談会	・計画の方向性や取組等に関する各種団体意見の把握	・関係団体に対するヒアリング
⑤パブリックコメント	・計画案に対する幅広い市民意見の把握	・パブリックコメント

5 策定スケジュール



豊田市を取り巻く環境の整理（まとめ）

【これまで】第8次総合計画（2017～2024）

豊田市の特徴

- ①世界的な自動車産業の拠点として発展してきた都市
- ②豊かな自然、多様な歴史・文化を持つ都市
- ③多様で充実した担い手を有する40万人都市

豊田市を取り巻く環境

- ①超高齢社会の進展
- ②産業構造の大転換
- ③新型コロナによる「新たな日常」
- ④大規模自然災害・気候変動
- ⑤SDGs
- ⑥公共施設等の老朽化
- ⑦厳しさを増す財政状況

まちづくりの基本的な考え方

多様な「豊かさ」を生み出す社会へ
従来からの発想の転換

- ・「つながり」重視へ
- ・「あるものを生かす」発想へ
- ・「かけ算」思考を
- ・「多様な主体が楽しむ」へ

リニア中央新幹線開業を見据えた
広域でのポジショニング

- ・ものづくり中枢都市として名古屋圏の飛躍を推進
- ・多様な資源やライフスタイルの選択肢の受皿になる

「将来都市像」つなげる つくる 暮らし楽しむまち・とよた

〔現在地〕

2023年

現状の評価

- ①市民の「住みよさ満足度」や「定住意向」は継続的に上昇している。
- ②様々な分野でプラットフォームの構築や官民連携による取組など、多様な「つながり」の場が創出されており、共働により持続的な取組としていく必要がある。
- ③順調に都市の形成が進展してきたが、更にメリハリのある機能集積・居住誘導が必要である。

2030

2040

2050…

ますます変化の激しい予測困難な時代の到来（VUCA※時代）

（※）変動性・不確実性・複雑性・曖昧性 の4英単語の頭文字をとった「未来の予測が難しい状況」を表す語

【社会潮流・豊田市の可能性とリスク】

●中長期的な人口減少局面の進展、少子化・人生100年時代の進展

- 少子化の加速により、まちの活力維持が困難になるリスク
- 既存の社会基盤等のポテンシャルや、国内外から多様な人材が集まる産業構造を生かし、中長期的に拠点性を維持できる可能性

●コロナ禍を契機とした価値観・ライフスタイルの多様化の進展

- 交通利便性や充実した基盤を生かしたコンパクトな都市の暮らしや、都市に近いながらも自然豊かな環境を生かした山村の暮らし等、多様な地域性を生かして様々なライフスタイルを受け止められる可能性
- デジタルによるつながりの進展で、地域社会の関係性が希薄となるリスク

●「モノの豊かさ」から「心の豊かさ（≒ウェルビーイング）」志向の高まり

- 本市ならではの充実した資源を生かし、将来を担う子どもたちに自己実現のための様々な選択肢（環境）を持続的に提供できる可能性
- 歴史・文化・芸術等の様々な分野で、市民一人ひとりのまちへの主体的な関わりを引き出すことで、地域への愛着・誇りの形成につなげられる可能性

●デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速、生成AI等の技術革新

- 広範な市域をデジタルのつながりによって下支えすることで、暮らしの質的な向上を実現できる可能性
- 技術革新が社会経済に予測不可能な劇的な変革をもたらす可能性

●産業構造の大転換、カーボンニュートラルの要請

- 次世代モビリティ研究開発拠点としての機能を更に強化できる可能性
- 「100年に1度の大変革」の動向により、産業構造が大きな影響を受けるリスク
- 進出意向のある企業等を誘致することで、産業の多角化を実現できる可能性

●持続可能な都市経営の必要性

- 気候変動により激甚化する災害の発生リスク
- 公共施設やインフラ老朽化に伴う維持管理費増大による財政的リスク

「人」の視点

「人を支える基盤（まち）」の視点

「ミライビジョン2050」の意義

長期を展望して設定する

普遍的な豊田市のまちづくりの方向性

展望する年次

カーボンニュートラル
の実現

2050年

技術の進歩による
社会生活の劇的な変化

国の総人口が約8割に
(2020年比)

めざす姿

(仮) つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた

継承

● 「つながり」を通じ、多様な価値や可能性を創出するまち

・ 豊田市の多様な地域の資源を、愛着や誇りをもって守り、次代を担う子どもたちに継承する持続可能なまちを実現するためには「人と人」「人と地域、自然」とのつながりを通じた「認め合い」「気づき」「学び」がますます重要。

深化

● 「チェンジ(変化)」と「チャレンジ(挑戦)」を繰り返し、しなやかに変化し続け、成長するまち

・ 変化のスピードが速く、常に前提が変わっていく社会環境においては、まちを能動的かつ柔軟に変え続けていくことが重要。そのために、あらゆる主体が変化を積極的・前向きに受容し、主体的に一歩踏み出して、心豊かな社会を実現していくことが必要。

めざす姿の実現を下支え

都市構造について

(別紙参照)

まちづくりの基本的な考え方

発想の転換 【8総から継承】

- 「個の充足・完結」から「つながり・関係性の拡がり・深まり」重視へ
- 「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ
- 「足し算(積み重ね)」に「かけ算(組み合わせ)」思考を
- 「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が楽しむまちづくり」へ

3つの「変える」を意識

● 見方を「変える」<気づく>

・ 思い込みや前提認識を変える。多様な価値観を認識し、認め合う。

● 思考を「変える」<考える>

・ 常に社会潮流の変化を観察し、考え方を柔軟に変化させる。

● 行動を「変える」<行動する>

・ 主体的に物事を捉え、行動につなげていく。

「ミライビジョン2050」の実現に向けて

● 「豊田市民の誓い」の実践

● 「豊田市まちづくり基本条例」に基づく実施

将来のまちの姿

（仮）変化し続け、持続可能な都市として成長するまち

都市構造

○第8次豊田市総合計画における都市構造の基本的な考え方

『コンパクト+ネットワーク※』を継承

※地域ごとの特性に応じて都市機能又は生活機能を集約すべき箇所を『拠点』、
拠点の相互連携を強めるための公共交通や道路を『ネットワーク』として設定

都市構造の実現に向けた方針

- 居住** 拠点への更なる機能集積により地域の活力と魅力を向上
・コンパクト+ネットワークの深化、拠点間の交流促進、地域の活性化
- 産業** 既存インフラを生かした産業集積による競争力強化
・基幹産業の更なる発展とものづくり拠点としての強固な基盤を確立
- 移動** ヒト・モノの移動に欠かせない交通ネットワークの強化
・広域な都市間・市内の拠点間の移動に係る連携機能を強化
- 自然** 豊かな自然の保全・維持、次世代への継承
・貴重な地域資源である森林・里山等の環境を保全、優良農地を維持
- 防災** 激甚化・頻発化する自然災害に対応する防災まちづくりの推進
・災害リスクに対応するための防災・減災対策の推進



本市の魅力とポテンシャルを最大限に引き出すため
既存のインフラや都市機能等を徹底的に利活用

居住の新たな視点

○鉄道のポテンシャルを生かし、駅の立地特性に応じて居住を誘導
鉄道沿線に『（仮）えきちか居住誘導エリア』を設定

○暮らしに必要な生活機能等を拠点間で連携
各地域に『（仮）くらし機能連携エリア』を設定

都市構造のイメージ

- 《居住》・拠点への都市機能・生活機能の集積
- 《産業》・インターチェンジ周辺等、利便性が高い地域へ産業の集積・強化
- 《移動》・ヒト・モノの安定的かつ効率的な移動を実現する交通ネットワークを強化
- 《自然》・農林漁業振興と調和したメリハリのある土地利用を推進
- 《防災》・災害リスクを踏まえた土地利用の推進

